

# 報告書

## 1. 紀の国わかやま国体 PR 活動

チーム リュック

太田健斗、福島弾、神澤慧、湯浅雄太

2. 今年度、約 50 年ぶりにわかやまで国体が開催される。しかし、若者を含め、わかやま国体にあまり興味が向けられていない。また、ゲーム機やスマホの普及により、子どものスポーツ離れが進んでいる。そこで、国体に興味を持ってもらい、スポーツを楽しんでもらうことを目的とした。これにより、国体について説明したのち、興味・意欲に関するアンケートを実施し、設定した数値を超えることを目標とする。

### 3. ① 県庁、附属小学校との連携

最初に、和歌山大学教育学部附属小学校でわかやま国体のオリエンテーリングについて説明しているポスターの配布許可を取り、県庁でポスターに使うきいちゃんマークの使用許可を取った。

### ② ポスター、アンケートの作成

次に、小学校に配布するポスターとアンケートを作成した。デモンストレーション

種目の、特に資格や年齢制限のないものを抜粋し、申し込み方法なども含めポスターに記載した。アンケートは「興味を持ったか」「調べたか」「行きたいと思ったか」の 3 つの質問内容で作成した。

### ③ ポスター、アンケートの配布と校内放送

最後に、附属小学校を訪ね、ポスターを各教室に掲示してもらい、校内放送にて簡単な説明をした。その翌週にアンケートを実施してもらい、アンケート結果を附属小学校で受け取った。その後、きいちゃんマークの使用目的や使用期間などを記載した報告書と作成したポスターを県庁に提出した。

4. 実施したアンケートでは、「興味を持ったか」「調べたか」では標準目標を、「行きたいと思ったか」では最高目標を達成することができた。全校生徒数が約 600 人で「興味を持った」と答えたのが 50%だったので、約 300 人の小学生がわかやま国体あるいはデモンストレーションスポーツに興味を持ってくれたことがわかる。また、県庁や附属小学校と上手く連携を取ることができた。それにより、計画をスムーズに進めることができた。そして、今回の計画によって我々は、大人から子どもまで相手にしたことによって幅広いコミュニケーション能力を身に着けることができた。
  
5. 今回の反省点として、ポスターを作成する際に、アプリケーションなどを扱う技術がなく、Word を使用してポスターを作成した。それにより、ポスターの完成度が不十分なものになってしまった。イラストやレイアウトは工夫したが、限界があることを痛感したので、より興味を持ってもらえるポスターを作成するために技術を身に着けるべきであった。また、言葉や画像だけでなく動画での説明をすることで、よりわかりやすく、興味を持ってもらえたのではないかと考えられる。

今後の発展として、ほかの地域の小学校や施設でも宣伝をしていき、規模が大きくなるにつれ HP や Twitter アカウントを作成し、ネット上での宣伝もしていくことでより多くの人に伝えることができると考えられる。
  
6. 期間が短く、小学校や自分たちの都合上計画を実行できる日が限られていたが、概ね計画通りに進み、順調であったといえる。低いながらも自分たちの技術力を最大限発揮し、読み手に配慮したポスターを作成した。県庁や小学校からも継続を望まれており、社会的、個別的成果ともに良いプロジェクトであったと思う。